

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
■基準日 定時株主総会 3月31日
剰余金の配当 3月31日
中間配当を行う場合 9月30日
そのほか必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。
- 定時株主総会 毎年6月下旬
■単元株式数 100株（平成26年4月1日より）
■株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
- お問い合わせ先

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
各種手続取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券 本店および全国各支店および営業所 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗） みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱いできませんので、ご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行 本店および全国各支店 みずほ銀行 本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

- 公告方法 電子公告（<http://www.se-corp.com/ir/koukoku>）
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

○配当金計算書について
租税特別措置法の改正により、株主様に支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した支払通知書を通知することとなっております。つきましては、支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を同封しておりますので、平成27年の確定申告の添付書類としてご使用ください。
なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、源泉徴収額の計算は証券会社等にて行われますので、平成27年の確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

ホームページのご案内



ホームページをリニューアルしました！

当社ホームページでは、詳細なIR情報や財務情報など、株主・投資家様向けの情報はもちろんのこと、当社をより理解していただくための様々な情報を掲載しております。ぜひ一度ご覧ください。

ホームページアドレス

<http://www.se-corp.com>

株主通信

第33期

平成25年4月1日～平成26年3月31日

●目次

- －エスイーグループ事業紹介
- －連結決算ハイライト
- －特集 Special Interview
- －Topics（トピックス）
- －事業の状況
- －連結財務諸表
- －会社情報
- －株式情報

エスイーグループ事業紹介

安心・安全で快適な暮らしのために、
様々なフィールドで貢献しています。

建設用資機材の
製造・販売事業
(株)エスイー

建築用資材の
製造・販売事業
エスイーA&K(株)

建設コンサルタント
事業
(株)アンジェロセック

補修・補強工事業
エスイーリペア(株)



橋梁の構造強化



橋梁の設計



トンネルの補修補強



マンションの仮設・内装建材



港湾などの耐震補強



橋梁の補修補強



高速道路など道路橋の構造強化



斜面の地すべり防止



学校などの耐震補強



オフィスビルの仮設・内装建材



海外の開発援助



公共事業・ODA等のコンサルティング

海外での
事業展開



韓国 KOREA SE CORPORATION
(株式会社コリアエスイー)
●建設用資機材の製造・販売事業



ベトナム VJEC (Vietnam Japan
Engineering Consultants Co., Ltd.)
●建設コンサルタント事業



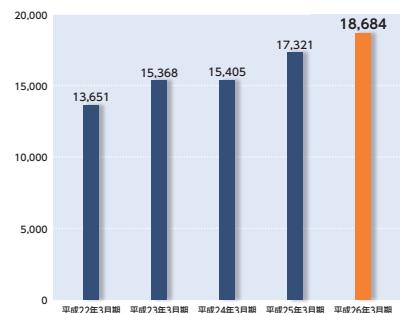
台湾 九春工業股份有限公司
●建設エンジニアリング事業



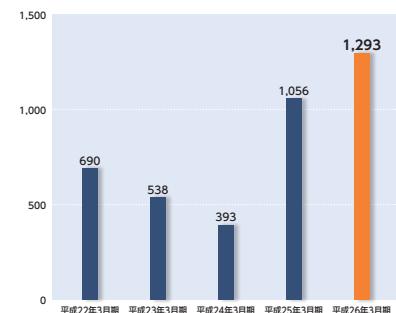
フランス アンジェロップ社
アンジェロップ社は、社会インフラ、公共交通、水道施設、建築物など多岐にわたる技術力やネットワークを持ち、世界各国で活躍するフランスのエンジニアリング会社です。当社は、世界最高水準の技術を有するアンジェロップ社と創業以来の協力関係にあり、国内外において共同で事業を展開しています。

● 連結決算ハイライト

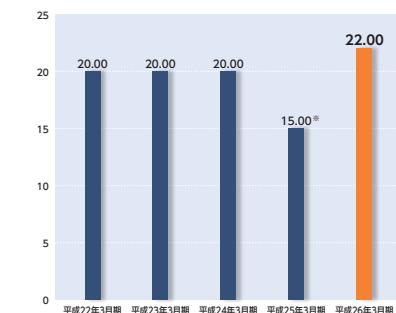
連結売上高 (単位: 百万円)



連結経常利益 (単位: 百万円)



連結修正1株当たり配当金 (単位: 円)



※平成25年1月に実施した株主割当増資により株式数がほぼ倍増するなか、配当金は増資に応じていただいた株主様に対して実質50%増にあたる1株15円といたしました。

● 平成26年3月期決算（連結）のポイント

① エスイーグループ過去最高の売上高を達成

復興事業の進展や政府の経済対策に伴う公共工事の景気浮揚策の追い風もあり、好調な受注・工事量に支えられ、平成25年3月期に引き続き増収増益を達成し、エスイーグループ過去最高の売上高となりました。

② ㈱エスイーおよびエスイーA&K㈱の業績好調

工事現場での職人不足による影響から、施工性の高い「KIT受圧板」や「グラウンドアンカー」などの主力製品の売上高が増加、また、東北・首都圏の建築工事量の増加などにより、建築用資材の販売も順調に推移いたしました。

● 平成27年3月期の連結業績における見通し

今後の見通しにつきましては、消費税増税による景気の落ち込みが予想されるものの、経済対策で追加された公共事業の執行に支えられた景気の回復が期待されます。

建設・建築業界においても、「国土強靱化」政策により、社会インフラ老朽化への社会的関心の高まりから、しばらく市場環境は良好に推移するものと思われまます。

以上のことから、平成27年3月期の連結業績見通しは、売上高205億円、営業利益14億89百万円、経常利益15億円、当期純利益8億34百万円を見込んでおります。

平成26年3月期連結決算ハイライト

売上高	186億84百万円 (前期比7.9%増)
経常利益	12億93百万円 (前期比22.5%増)
配当金	22円 (前期比+7円)

平成27年3月期連結業績予想

売上高	205億円 (前期比9.7%増)
経常利益	15億円 (前期比15.9%増)
配当金	22円

特集

Special Interview

櫻井英明氏が
エスイーの魅力を探る!



画期的なイノベーションと果敢な挑戦でさらなる成長へ——

チャートだけに頼らず、企業訪問や経営者への取材を通じて未来の有望銘柄を発掘し続ける株式評論家の櫻井英明氏。個人投資家から絶大な支持を受ける櫻井氏が、平成26年3月期における取り組み、そして、今後の成長戦略について森元峯夫社長にインタビューしました。

森元峯夫 × 櫻井英明

当期の増収増益に大きく寄与した 防災・インフラ関連分野の業績伸長

櫻井 当期（平成26年3月期）は増収増益というすばらしい業績でしたが、特に拡大した分野はありますか？

森元 まずは環境防災分野で、特に東日本大震災復興事業関連や耐震補強が非常に好調でした。2つ目は、M&Aによって取得したエスイーA&K（株）が、東日本大震災復興事業関連で良い業績を上げています。そして、3つ目が社会インフラの補修・補強分野で、M&Aによって取得したエスイーリペア（株）が非常に好調で業績に大きく寄与しました。これら3つのことが当期の増収増益を実現し、さらに次期も1割増し程度の業績を見込める原動力となっています。

櫻井 防災やインフラにはコストをかけてきっちり整備していかなければならない、という考え方が日本中に浸透してきたという背景も大きいのではないのでしょうか？



プロフィール 森元肇夫
(株)エスイー代表取締役社長。(株)アンジェロセック代表取締役会長。工学博士。フランス共和国国家功労賞コマンドゥール勲章、国際プレストレストコンクリート連合FIPメダルなど受賞多数。

森元 そうですね。特に東日本大震災以来、インフラの基礎部分が非常に重要だという認識が広まったことに加え、これにアベノミクスが呼応して、公共事業もしっかりやっという機運が強まったことも大きかったといえます。

櫻井 必要なものを必要なだけ充たしなげなければならない、という認識ができてきましたよね。

森元 ええ、それは大きな進歩だと思います。これまで公共事業というと失業対策や雇用対策、景気の調整に使われる面が強くありましたが、現在は、首都直下地震や南海トラフ地震の可能性が指摘されているので、みんな一生懸命、本当の足もとを見るようになった、ということではないのでしょうか。

もはや待たなしの国土インフラ整備と 「Creating Shared Value」という発想

櫻井 この一年半ばかり続いてきたアベノミクスでは、「国土強靱化」ということも打ち出されてきましたが、その影響というのは御社にとってほどのくらいあったのでしょうか？

森元 もともと国土強靱化のために、私は27年前に日本構造物診断技術協会というものを設立して、技術者の養成と技術の向上に取り組んできました。昨年成立した国土強靱化基本法の追い風を受けて、こうした取り組みをようやく事業に結び付けていける状況になりつつあります。

櫻井 日本のインフラ、特に首都圏のインフラは、もう耐用年数ギリギリまでできていると言われてますね。

森元 ええ、例えば道路橋は70万橋ほどありますが、現在そのうち20%近く、あと10年で40%が建設から50年を超えます。これは早急に手を打つべき問題です。

櫻井 橋や道路を通過する際に不安があってはなりませんよね。本来、国には安心・安全を国民に届

ける役割があるわけですが、その役割の一端を御社が担っているということですね。

森元 特に当社のような会社は人が生活する上で安心・安全を提供できる存在でなければなりません。最近言われていることですが、「Creating Shared Value」、つまり社会で分かち合える価値を創出していくことが大切です。そういう意味で当社は国の根幹、人の生活の根幹に関わる価値ある事業を生み出していける将来展望の明るい会社だと自負しています。

社会インフラ整備事業の重要性と 成長戦略としての海外展開とPPP

櫻井 去年の秋に開催が決まって国中が沸いた東京五輪ですが、これに絡んで首都圏のインフラ整備はさらに進むのでしょうか？

森元 特に首都高速は老朽化が進んでおり、海岸地区の方にはヒビの入った橋脚などもあります。当然、その補修や整備は増加するでしょうから、そこには当社の技術を大いに活かせると思っています。

櫻井 すでにある道路網そのものも国民の貴重な財産ですし、これから五輪などに向けて造られてくる道路網も受け継がれていく貴重な財産です。強く、長く、安全に保っていかなければなりませんよね。

森元 そもそも日本は今から15年前までは健全な公共投資をして社会インフラを整備してきました。しかし、その後の15年間で公共投資は半分に減ってしまい、それが問題として顕在化ようになってきたのが現在の状況といえるでしょう。

櫻井 本来、インフラ整備は毎年同じように適正なコストをかけて取り組んでいくべきことで、凸凹があってはならないということですね。では今後の成長戦略ということで、特に海外展開か



プロフィール 櫻井英明
ストックウェザー「兜町カタリスト」編集長。最新経済動向を株式市場の観点から分析した独特の未来予測に定評がある。ラジオNIKKEIでは火曜「ザ・マネー 櫻井英明のかぶとびら」、木曜「櫻井英明の投資知識研究所」などに出演。

らお聞かせいただけますか？

森元 海外進出は極めて重要なテーマです。成長しようとしている国へ行き、事業を現地化して現地の人々と一緒に会社を作り、利益を分かち合っていきたいと考えています。また、前述の「Creating Shared Value」は国内だけでなく、海外においても当てはまる考え方です。例えば、当社では現在、ベトナム国立土木工学大学（NUCE）と共に高速道路や橋梁の建設プロジェクトを展開していますが、これはベトナム社会にとっても非常に価値のあることですし、今後の事業展開に対するベトナムの方々からの期待も大きいですね。

櫻井 ここ数年、注力されているPPPについてはいかがでしょうか？

森元 日本ではGDPの2倍のキャッシュが民間にありますが、その行き場がありません。できればそのキャッシュから年間数兆円規模のPPP市場ができればと思っていますが、当社としてはまず、海外で成功事例を作り、それを日本に持ち込んでPPP市場を牽引していければと考えています。

PPP：Public Private Partnership（官公庁と民間の提携事業方式）

建設業界の様々な常識を覆す イノベーションとしての「ESCエスコン」の可能性

櫻井 新しい工法や新素材なども開発されていますね。特に耐久性に優れたコンクリート「ESCエスコン」シリーズについてはいかがでしょうか？

森元 ヨーロッパ人は石造りの家に何百年も住み続け、新たに家を造る必要がありません。それに橋を造っても300年ぐらい使っている。ところが日本は50年経ったら家も橋も作り替えなければならない。その結果、お金は貯まらず、暮らしは豊かになりません。そこで私は150年、200年もつコンクリートを作りたいと思い、それが開発のきっかけです。基礎技術を確認したESCエスコン IIは、従来のコンクリートの10倍近い引張強度と数倍の圧縮強度があるので、部材としては薄く小さくできます。コンクリートの量は半分ほどになり、従来よりも運搬費や建設費も低減できます。

櫻井 コンクリートの強度の問題で分厚かったものを薄くできるのであれば、美観的にも美しい建物が増えていくかもしれませんね。

森元 発想としてはインスタントラーメンと同じで、誰が作っても美味しく作れるようにどんな人でも味付けができて、どんな人でも使えるコンクリートです。ぜひご期待いただきたいですね。

櫻井 耐久年数の長さについて、もっとマーケットは注目すべきだと思います。

森元 例えば自動車を筆頭に製造業は素晴らしい成長性をもっていますが、それはイノベーションを実現しているからです。従来のものをそのまま使っているのは、産業としての成長性が見込めません。ですから多少の時間がかかっても、新技術をはじめとするイノベーションには今後も注力していきたいと思っています。

グローバルマーケットを意識した エンジニアリングとM&Aの取り組み

櫻井 エンジニアリング事業についてはいかがでしょうか？

森元 我々はフランスのアンジェロップ社と組んで、(株)アンジェロセックという会社で事業展開していますが、今後は事業分野の拡大、特に鉄道分野への進出を図っていきたくて考えています。

櫻井 M&Aの今後の展開はいかがでしょう？

森元 今後もさらに当社と同じくらいの規模の会社を取得したいと思っています。それは人材を確保できて、マーケットや技術を獲得できるからです。建設業は合併やM&Aが少ない業界ですが、業容・業態を拡大していくためには、さらに積極的にM&Aを推進していく必要があると思います。

櫻井 つまり、国内で群雄割拠する時代ではなく、世界のレベルで物事を考えていかなければならない、ということですね。

森元 近年では建設業も急速に大手企業が海外進出するようになりましたが、ODAというのはいつまでも続きませんので、やはりPPPが重要になります。PPPをやるとイノベーションが起こり、人材が育ち、事業を創り出すためのノウハウが高度化します。これが経営にも活かされるのです。となると、これまで先駆的にPPPに取り組んでこられた御社の先駆者としての役割がますます生きてくるのではないかと。

森元 そうですね、特にESCエスコンやPPPといった我々が取り組んでいる新たな技術やスキームを通じて、建設産業、ひいては社会全体の役に立てればと思っています。



すべてのステークホルダーにとって 魅力ある会社であるために——

櫻井 御社は国家の根幹に関わる社会インフラを整備する重要な会社ですから、早く大きく成長していただきたいですね。最後に、株主や投資家の方々へ向けてコメントをお願いします。

森元 いずれは、年商300億円の会社にして、10%ぐらいの経常利益を出していきたいですね。また、将来的に配当をさらに増やすことで、できる限り株主に報いていきたいと思っています。株主を意識しない事業は成長しませんし、そういった意味で株主様を大切にしていける会社になりたいと思っています。私には「魅力ある建設産業の実現」という叶えたいテーマがあります。そ

のためにはまず当社が、何よりも株主様から、そして従業員や役員からも魅力を感じてもらえるような会社にならなければなりません。私にとってこの目標は大きなエネルギーの源泉となっていますね。

櫻井 すでに十分、魅力のある会社だと思いますが、今後さらに株式市場も御社の魅力に気づき始めるのではないのでしょうか。業績の伸び、今後の成長戦略を伺っても、そこにはしっかりしたバックボーンがありますから、マーケットも御社がさらに発展されることを望んでいるはずですよ。今期も御社の活躍に注目したいと思います。本日はありがとうございました。

森元 皆様のご期待にお応えできるよう頑張ります。ありがとうございました。

インタビューを終えて

「欧州に比べると日本の建築技術はまだ出遅れている。そのためには革命児でなければならないでしょう」と森元峯夫社長。国土強靱化はお題目ではなく現実に必要な不可欠の時代となりました。社会資本であるインフラは現在だけでなく、50年後、100年後にも利用されるもの。将来の世代が安心して生活できる基盤は間違いなく必要です。国土強靱化計画のメインストリームに位置している以上、同社の業容の拡大基調はまだ続きそうです。

櫻井英明

● Topics(トピックス)

1 「ESCON」の開発と実用化に向けて

当社で開発中の超高引張強度コンクリート「ESCON」について、基礎技術である「ESCON II」の製造方法を確立いたしました。セメントと合成繊維を使い簡便な装置で真空処理したモルタルを用いて、従来のコンクリートに比べてひび割れの生じにくい高い引張強度が特徴です。水も空気もほとんど浸透せず、凍結融解、塩害や中性化の心配がなく、150年以上の耐久性を見込んでおり、また、部材厚を薄く軽量化できるため耐震上有利になると考えております。橋梁の補修・補強ニーズの高まりに鑑み、現在複数の大学機関と共同で「ESCON II」と超高強度鉄筋を用いた柱、梁、床版の載荷試験等を行っており、早期に試験施工を実施し小規模な橋梁から実用化を目指してまいります。また既存製品である受圧板に「ESCON II」を用いた試験施工は今春実施済みであり、今後は優れた耐磨耗性を生かし砂防堰堤に耐磨耗板として試験施工を実施する予定です。

さらに今後、強度をより高めた「ESCON」シリーズとして、炭素繊維骨材や鉄筋に替わる補強材の炭素繊維筋を用いた床版の開発も進めてまいります。



2 ベトナム サン国家主席と会談実施

平成26年3月、当社社長森元がベトナムのサン国家主席と会談いたしました。

エスイーグループが手掛けるバックダン橋プロジェクトをベトナム政府にアピールし、日本の国家プロジェクトとしていくための協力要請をいたしました。

今後とも、日本とベトナムの架け橋となるよう、エスイーグループではベトナム事業をさらに推進してまいります。



3 鉄建工業株式会社をグループ化

平成26年4月7日、愛知県にある鉄建工業株式会社がエスイーグループの一員となりました。当社の既存事業における領域拡大を目指し、鉄建工業株式会社の安定的な経営や優良な得意先、高い技術力を共有するとともに、東日本エリアの製造拠点とし、物流コストの削減等においてシナジー効果が期待されます。

● 事業の状況

エスイーグループの事業は主に4つのセグメントにより構成されています。

建設用資機材の製造・販売事業

(株)エスイー



売上高 111億22百万円 (前期比9.5%増)

公共工事の景気浮揚策の追い風があり、国の補正予算についても順次執行された結果、法面・港湾などの工事に使用される「グラウンドアンカー」や工事現場での職人不足に対して施工の省力化が図れる「KIT受圧板」の販売が順調に推移いたしました。



建築用資材の製造・販売事業

連結子会社：エスイーA&K(株)



売上高 53億51百万円 (前期比7.5%増)

職人の慢性的不足から、工期遅延・着工延期が生じているものの、建築工事量は増加傾向であり、主に首都圏市場で資材販売が順調に推移いたしました。



建設コンサルタント事業

連結子会社：(株)アンジェロセック



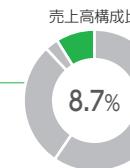
売上高 5億91百万円 (前期比36.0%減)



海外展開による受注物件の確保に注力し、国内外の施工監理業務などの受注消化活動および積極的な受注活動を展開いたしました。

補修・補強工事業

連結子会社：エスイーリペア(株)



売上高 16億19百万円 (前期比29.3%増)

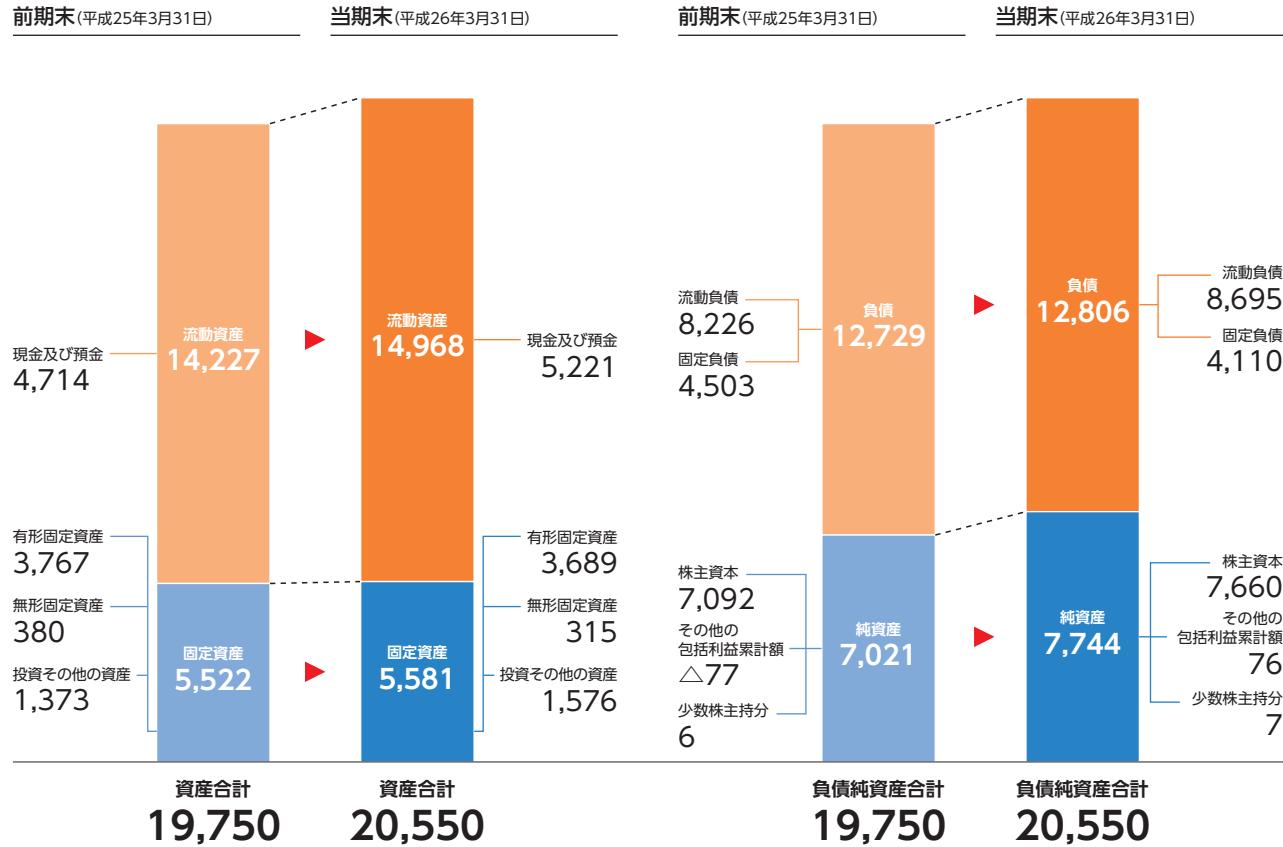


政府による「国土強靱化」を掲げる政策による公共事業費増加の追い風を最大に受けることができ、また、老朽化した橋や道路、トンネルなどのインフラ老朽化への社会的関心などにより市場環境は大きく好転し、増収増益となりました。

※売上高および売上高構成比は端数処理をしております。

● 連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨) (単位: 百万円)



POINT①

資産増加の主な要因は、利益の増加に起因したことによる「現金及び預金」が5億6百万円増加したことによります。

POINT②

負債増加の主な要因は、第4四半期連結会計期間に集中した仕入債務が増加したことにより、支払手形及び買掛金が5億80百万円増加いたしましたが、一方で借入金で4億88百万円減少したことによります。

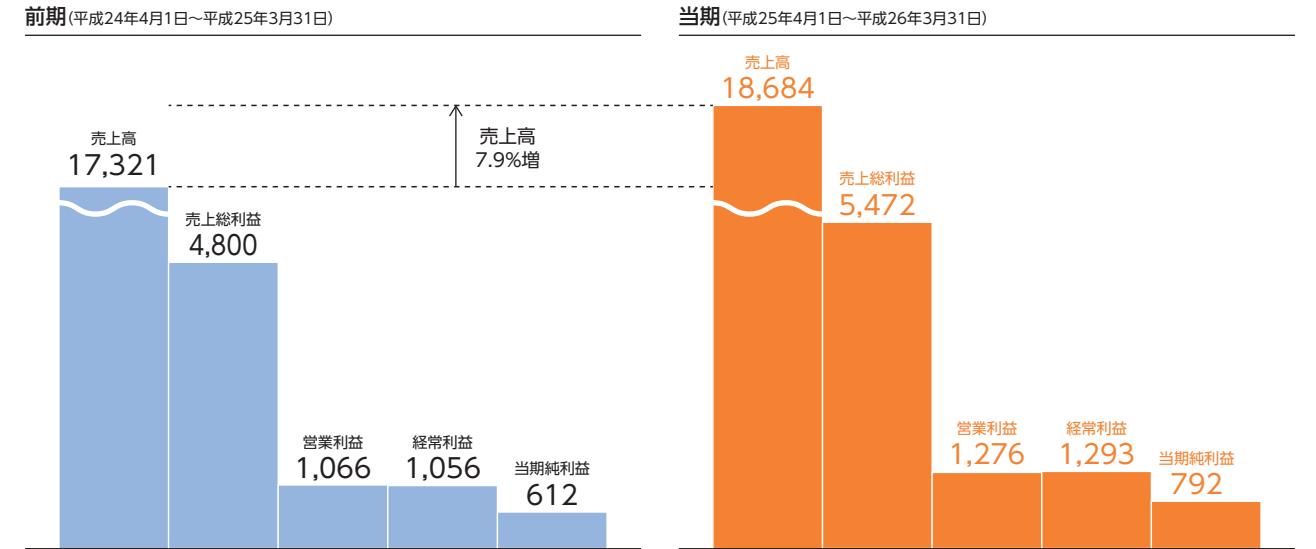
POINT③

純資産増加の主な要因は、株主配当金の支払いがあったものの、当期純利益の計上による利益剰余金の増加に加え、その他の包括利益累計額(為替換算調整勘定)が1億35百万円増加したことによるものです。

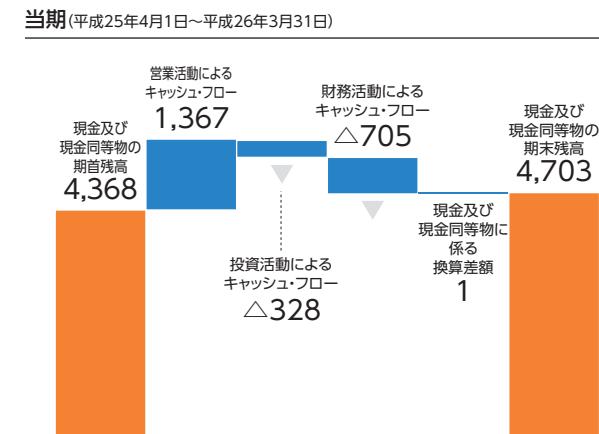
より詳しい財務情報は、IR情報サイトをご覧ください。 [エスイー IR 検索 http://www.se-corp.com/ir/](http://www.se-corp.com/ir/)

(注) 財務諸表の記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

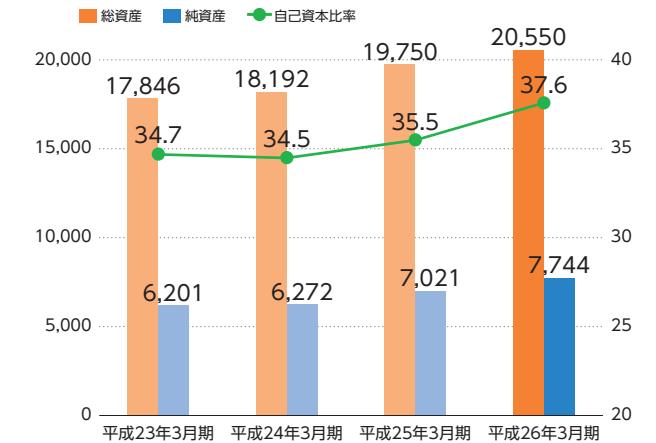
連結損益計算書 (要旨) (単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) (単位: 百万円)

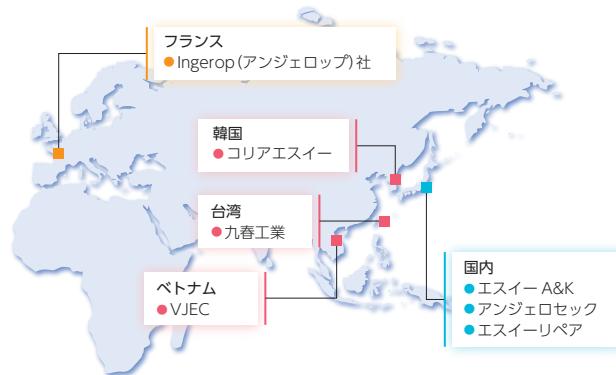


総資産・純資産 (単位: 百万円) 自己資本比率 (単位: %)



● 会社情報 (平成26年3月31日現在)

商号 株式会社エスイー
 所在地 〒163-1343
 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号 (新宿アイランドタワー)
 創業 昭和42年8月
 設立 昭和56年12月
 資本金 12億2,805万円
 従業員数 単体187名、連結372名
 グループ事業内容 1.建設用資機材の製造・販売 (株エスイー)
 ・環境防災分野
 ・橋梁構造分野
 ・PPP/コンセッション分野
 2.建築用資材の製造・販売 (エスイーA&K(株))
 3.建設コンサルタント (株アンジェロセック)
 4.補修・補強工事 (エスイーリペア(株))
 5.その他 (超高引張強度
 コンクリートの開発等)
 関係会社 (株)アンジェロセック (連結)
 エスイーA&K(株) (連結)
 エスイーリペア(株) (連結)
 (株)コリアエスイー (持分法適用、韓国)
 (有)日越建設コンサルタント (VJEC) (非連結、ベトナム)
 九春工業股份有限公司 (台湾)
 アンジェロップ (フランス)



役員 (平成26年6月27日現在)

■取締役・監査役
 代表取締役社長 森 元 峯 夫
 執行役員社長
 代表取締役副社長 大 津 哲 夫
 執行役員副社長
 取締役 専務執行役員 岡 本 哲 也
 取締役 専務執行役員 塚 田 正 春
 取締役 常務執行役員 本 間 誠 治
 取締役 常務執行役員 今 田 顕 行
 取締役 執行役員 戸 澤 憲 之
 取締役 執行役員 杉 山 浩 二
 監 査 役 鈴 木 章 英
 監 査 役 寺 石 雅 男
 監 査 役 菅 澤 喜 男
 ■執行役員 (取締役を兼任するものを除く)
 執行役員副社長 石 崎 浩 一
 執行役員 久 賀 泰 郎
 執行役員 中 村 賢 一
 執行役員 和 田 弘 男
 執行役員 水 城 康 男

● 株式情報 (平成26年3月31日現在)

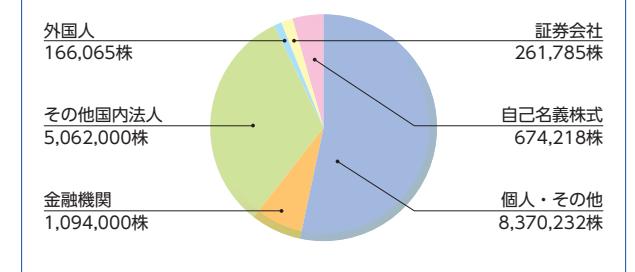
株式の状況

- 発行可能株式総数 27,400,000株
- 発行済株式の総数 15,628,300株 (うち自己株式674,218株)
- 株主数 1,876名
- 大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
有限会社エヌセック	4,786,000	32.0
森元峯夫	499,000	3.3
大津哲夫	490,000	3.2
岡本哲也	485,000	3.2
前田昌則	468,000	3.1
高橋謙雄	400,000	2.6
日本証券金融株式会社	341,000	2.2
鈴木昭好	265,000	1.7
竹島征男	250,000	1.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	248,000	1.6
合 計	8,232,000	55.0

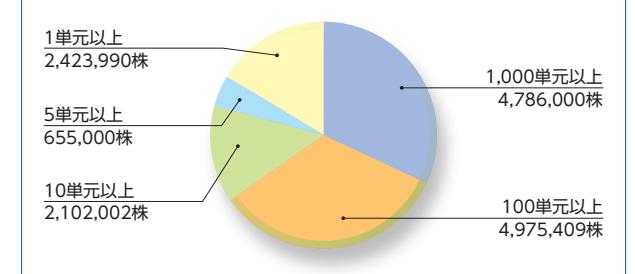
(注) 持株比率は、自己株式 (674,218株) を控除して、計算しております。

●所有者別株式分布



※「その他国内法人」には証券保管振替機構名義株式 (1名,2,000株) が含まれておりません。

●所有株式数別株式分布



※「所有株式数別株式分布」には自己株式および単元未満株式を含めておりません。
 ※「所有株式数別株式分布」には証券保管振替機構名義株式 (1名,2,000株) が含まれておりません。

株主優待のご案内

平成26年3月31日現在の株主名簿に記録された1単元 (1,000株) 以上の当社株式を保有されている株主様を対象に、災害時に備える防災用品や非常食をはじめ一律3,000円相当の品目リストより株主様が選ばれた一品目を贈呈いたします。

- ※ 1 期限までにお申し込みがない場合は、当社より社会貢献団体への寄付 (3,000円分) とさせていただきます。
- ※ 2 「株主様ご優待のご案内」は別送させていただいておりますのでご注意ください。

